Ⅲ　教科ごとの調査結果とその分析

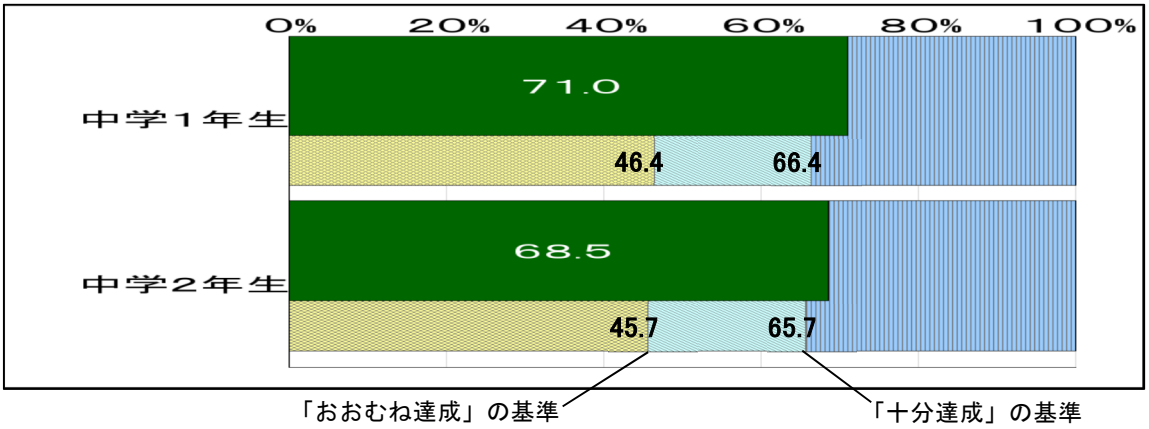
英　語

◎　英語

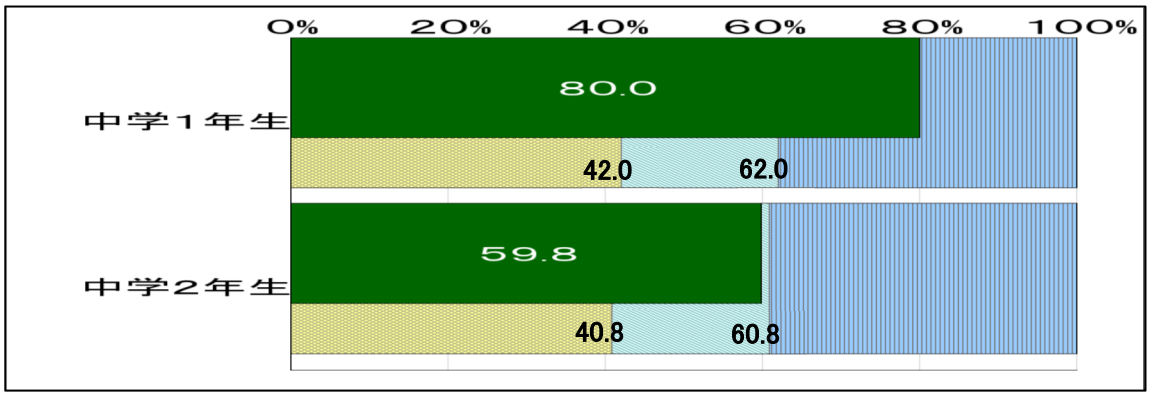
(1)　結果の概要

○　教科正答率は、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。［グラフ１］
○　「活用」に関する問題については、中学１年生で「十分達成」の基準を上回っており、中学２年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。［グラフ２］
○　観点別に見ると、全ての学年の全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「外国語理解の能力」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「言語や文化についての知識・理解」については、中学１年生で「十分達成」の基準を上回っている。
［グラフ３～５］
○　内容・領域別に見ると、全ての学年の全ての内容・領域で「おおむね達成」の基準を上回っている。「聞くこと」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「読むこと」については、中学２年生で「十分達成」の基準を上回っている。［グラフ６、７］

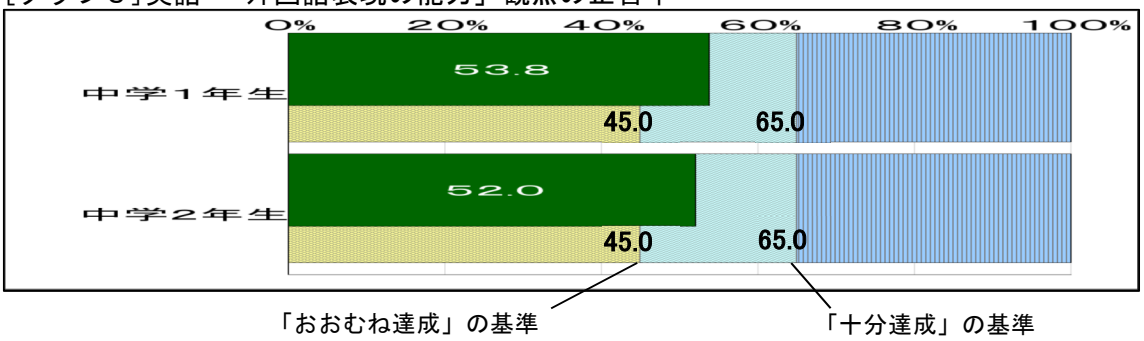
［グラフ１］英語 教科正答率



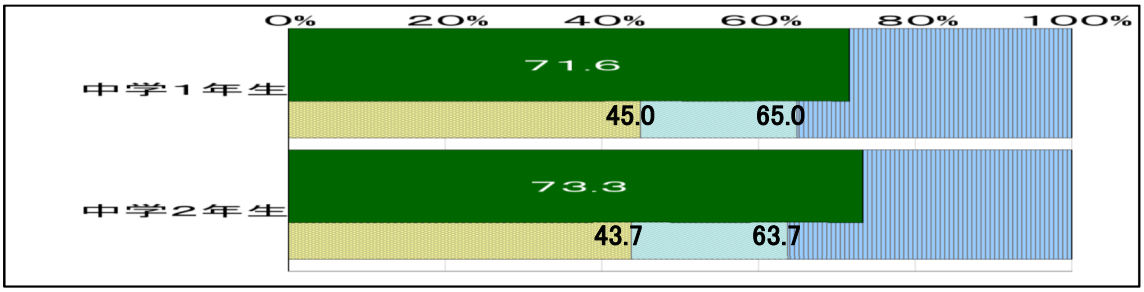
［グラフ２］英語 「活用」に関する問題の正答率



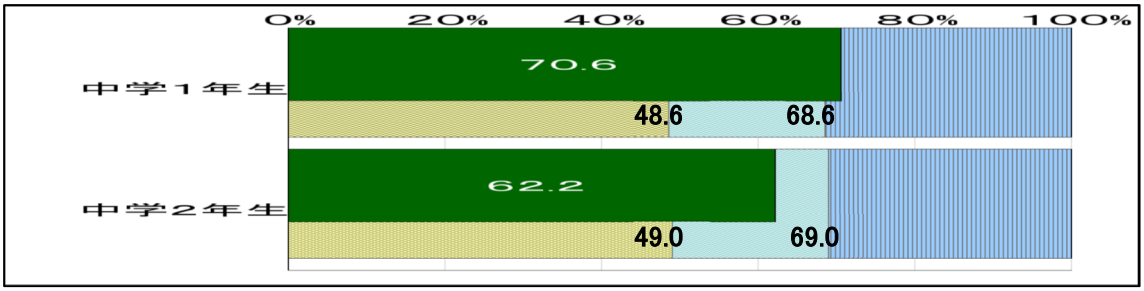
［グラフ３］英語　「外国語表現の能力」観点の正答率



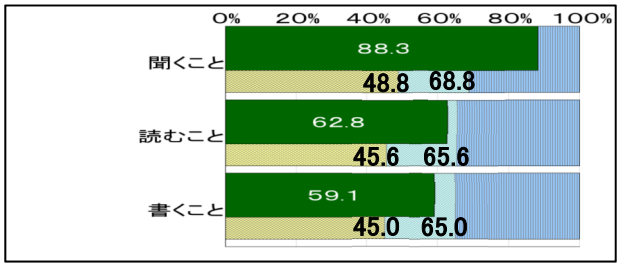
［グラフ４］英語「外国語理解の能力」観点の正答率



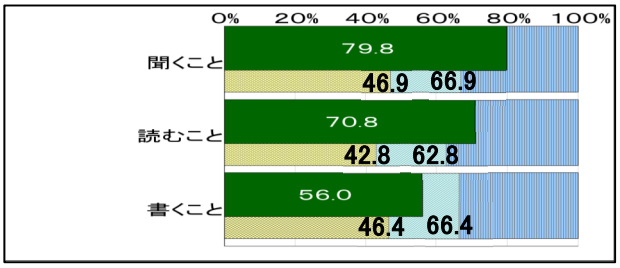
［グラフ５］英語　「言語や文化についての知識・理解」観点の正答率



［グラフ６］中学１年生　内容・領域別正答率



［グラフ７］中学２年生　内容・領域別正答率



(2)　成果と課題及び指導改善のポイント

中学校英語（中学１年生、中学２年生）

成果(◇)と課題(◆)

◇　聞いて得た情報と図表やグラフから読み取った情報を関連付けながら理解することができている。（中学１年生4、中学２年生1(3)）

◇　説明文や対話文を読んで得た複数の情報と絵や図表から読み取った情報を関連付けながら理解することができている。（中学１年生6 8(1)、中学２年生6）

◇　質問の答えを適切な表現を用いて書くことについて、同一学年の経年比較をすると、平成 27 年度[12 月調査]から改善の傾向が見られる。
（「十分達成」の基準を１とした場合…１年生 H27:0.88→H28:1.02、２年生 H27:0.69→H28:0.89）
（中学１年生 12、中学２年生 11）

◆１　疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して書くことに、１年生では一部課題が見られ、２年生では課題が見られる。（中学１年生 10、中学２年生9）

◆２　対話文やメールの文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じること（１年生）や、内容的にまとまりのある返信を書くこと（２年生）に一部課題が見られる。
（中学１年生5、中学２年生 12(2)）

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12 月調査]Web 報告書　参照

指導改善のポイント

◆１　疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して文を書く力を育成するためには、Input、Intake、Output の過程を踏まえた段階的な指導を行うことが必要である。Input においては、様々な形の疑問文を体系的に取り扱うために、新出の疑問文と既習の疑問文を関連付けながら指導した上で、どのような場面で用いるかを Teacher Talk で理解させることが大切である。Intake においては、Pattern Practice のみならず、実際の場面を想定した意味のあるコミュニケーションを行わせることが大切である。Output においては、例えば、クイズショーやインタビューなどの場面を設定し、質問と応答のための原稿を作成する活動を通して、Speaking と Writing を関連付けさせたり、モデルやルーブリックを提示して、目的意識をもたせた Output 活動を行わせたりすることが大切である。また、Feedback の時間を設定し、生徒が Output した英文に誤りがある場合には、Intake、Input で行った学習を振り返らせながら、誤りに気付かせることが必要である。

◆２　対話やメールでやり取りしている相手の意向を理解し、適切に応じる力を育成するためには、本文の内容理解の場面で、人物の心情や場面の状況について、教師が、事実発問、推論発問、評価発問の構成に沿って発問し、生徒の内容理解を深めさせたり、生徒が疑問文の形に応じた適切な答え方を考えたりする機会を設けることが大切である。また、読み取った人物の心情や場面の状況に応じて、独自で作成した質問文や応答文を本文に差し込む RBL の活動も必要である。その際には、ペアやグループで活動させながら、人物の心情や場面の状況をより詳しく理解させ、それについて考えたことを表現させることが大切である。また、帯活動において復習をさせることによって、既習の表現を使用できるようにさせたりすることが大切である。さらに、様々な学習活動を行った後には、Sharing を必ず行い、互いが作成した英文の良さを認め合ったり、より良い表現に気付いたりする機会をもたせることが大切である。

ぜひ　ご活用ください！ → ここをクリック

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。読みのプロセスを踏まえた発問構成の工夫について提案しています。授業づくりに役立ててください。

（３） 各学年の設問ごとの正答率

［表１］中学校１年生　英語　出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果　　※「◎」は「十分達成」，「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,182	71.0	3.6	66.4	46.4	◎

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数（問）	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	88.3	0.1	68.8	48.8	◎
	読むこと	9	62.8	2.5	65.6	45.6	
	書くこと	10	59.1	8.4	65.0	45.0	
評価の観点	①表現	8	53.8	9.8	65.0	45.0	
	②理解	13	71.6	1.8	65.0	45.0	◎
	③言語・文化	11	70.6	5.3	68.6	48.6	◎
問題形式	選択式	15	78.9	0.3	67.3	47.3	◎
	短答式	2	44.2	9.4	65.0	45.0	▼
	記述式	8	62.8	8.2	65.0	45.0	
活用	「活用」に関する問題	5	80.0	3.3	62.0	42.0	◎

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等							評価の観点					問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと					①表現	②理解	③言語・文化			選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				88.6	0.1	A	75	55	◎
1	(2)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				97.1	0.0	A	75	55	◎
2	(1)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				70.2	0.1	A	75	55	
2	(2)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				85.6	0.2	B	70	50	◎
3	(1)	対話を聞いて，概要を理解する	○								○				○				98.6	0.1	B	70	50	◎
3	(2)	対話を聞いて，概要を理解する	○								○				○				86.5	0.1	C	65	45	◎
4	(1)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○								○				○			○	94.6	0.1	D	60	40	◎
4	(2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○								○				○			○	85.3	0.2	D	60	40	◎
5	(1)	対話文を読んで，相手の意向を理解し，適切に応じる		○							○				○				47.2	0.3	C	65	45	
5	(2)	対話文を読んで，相手の意向を理解し，適切に応じる		○							○				○				52.8	0.6	C	65	45	
6		説明文を読んで得た複数の情報と絵から読み取った情報を関連付けながら理解する		○							○				○				90.4	0.3	B	70	50	◎
7	(1)	英文を読んで，大切な部分を理解する		○							○				○				75.0	0.4	C	65	45	◎
7	(2)	英文を読んで，書き手の意向を理解する		○							○				○			○	76.2	0.5	C	65	45	◎
8	(1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○							○				○				72.0	0.8	C	65	45	◎

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等								評価の観点					問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと						①表現	②理解	③言語・文化			選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
8	(2)	対話文を読んで，大切な部分を正確に理解する		○								○				○				63.6	0.9	C	65	45	
9	(1)	対話文を読んで内容を理解し，適切な語を書く		○	○						○	○					○			24.2	8.5	C	65	45	▼
9	(2)	対話文を読んで内容を理解し，適切な語を書く		○	○						○	○					○			64.1	10.3	C	65	45	
10	(1)	疑問文の構造を理解し，語と語のつながりに注意して正しく書く			○						○		○					○		20.2	12.2	D	60	40	▼
10	(2)	疑問文の構造を理解し，語と語のつながりに注意して正しく書く			○						○		○					○		40.0	13.8	D	60	40	
11	(1)	対話文を読んで，語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○								○					○		90.4	2.7	C	65	45	◎
11	(2)	対話文を読んで，語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○								○					○		70.0	2.9	C	65	45	◎
12	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○		68.4	7.2	A	75	55	
12	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○		69.7	11.0	B	70	50	
12	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○	○	76.1	8.4	C	65	45	◎
13		自己紹介の文に相手に対する質問文を加えた，内容的にまとまりのある一貫した文章を書く			○						○							○	○	67.7	7.5	D	60	40	◎

［表２］中学校２年生　英語　出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果　　※「◎」は「十分達成」，「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,316	68.5	4.7	65.7	45.7	◎

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数（問）	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	聞くこと	8	79.8	0.3	66.9	46.9	◎
	読むこと	9	70.8	3.4	62.8	42.8	◎
	書くこと	11	56.0	10.7	66.4	46.4	
評価の観点	①表現	8	52.0	13.6	65.0	45.0	
	②理解	15	73.3	2.2	63.7	43.7	◎
	③言語・文化	10	62.2	9.4	69.0	49.0	
問題形式	選択式	18	75.8	0.6	65.3	45.3	◎
	短答式						
	記述式	9	54.0	12.9	66.7	46.7	
活用	「活用」に関する問題	6	59.8	9.3	60.8	40.8	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため，それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は，実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等							評価の観点					問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと					①表現	②理解	③言語・文化			選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				93.6	0.2	A	75	55	◎
1	(2)	強勢，イントネーション，区切りなどに気を付けて，音声を的確に聞き取る	○									○			○				82.4	0.2	B	70	50	◎
1	(3)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○								○				○				86.8	0.5	B	70	50	◎
2	(1)	対話を聞いて，適切に応じる	○								○				○				58.0	0.4	C	65	45	
2	(2)	対話を聞いて，適切に応じる	○								○				○				43.8	0.4	C	65	45	▼
3	(1)	まとまりのある英語を聞いて，話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○								○				○				87.3	0.3	C	65	45	◎
3	(2)	まとまりのある英語を聞いて，話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○								○				○				93.5	0.3	C	65	45	◎
4		まとまりのある英語を聞いて，複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○								○				○			○	92.6	0.3	D	60	40	◎
5		対話文を読んで，大切な部分を正確に理解する		○							○				○				90.4	0.5	B	70	50	◎
6	(1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○							○				○				88.4	0.4	C	65	45	◎
6	(2)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○							○				○				75.9	0.7	C	65	45	◎
6	(3)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○							○				○			○	79.0	0.7	D	60	40	◎
7	(1)	対話文を読んで，大切な部分を理解する		○							○				○				83.9	0.8	C	65	45	◎
7	(2)	対話文を読んで，大切な部分を理解する		○							○				○			○	43.6	1.0	D	60	40	

設問別集計結果

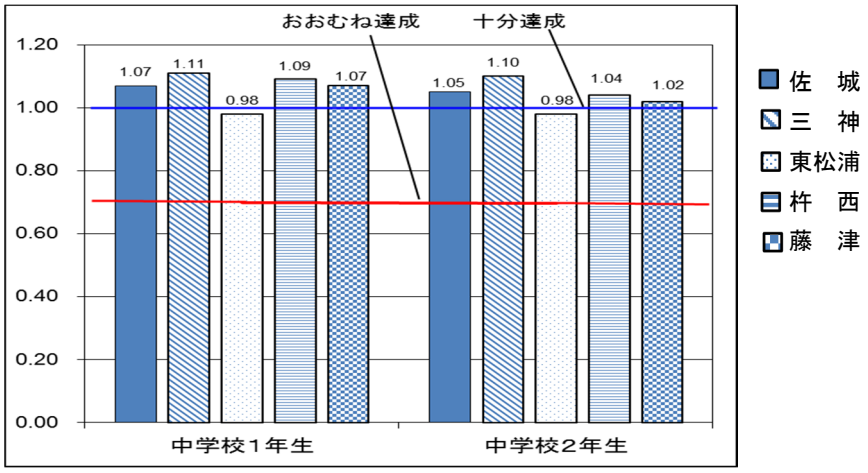
問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等								評価の観点					問題形式			活用	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
			聞くこと	読むこと	書くこと						①表現	②理解	③言語・文化			選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題			問題分類	十分達成	おおむね達成	
7	(3)	対話文を読んで，大切な部分を理解する		○								○				○				60.5	0.9	D	60	40	◎
8	(1)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い，全体として一貫性のある文を作る			○						○					○				61.7	0.7	C	65	45	
8	(2)	一文の前半の内容と後半の内容の関連に注意を払い，全体として一貫性のある文を作る			○						○					○				67.8	0.8	C	65	45	◎
9	(1)	疑問文の構造を理解し，語と語のつながりに注意して正しく書く			○						○		○					○		40.0	16.4	C	65	45	▼
9	(2)	疑問文の構造を理解し，語と語のつながりに注意して正しく書く			○						○		○					○		23.5	28.4	C	65	45	▼
10	(1)	対話文を読んで，語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○								○					○		78.7	2.4	B	70	50	◎
10	(2)	対話文を読んで，語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○								○					○		67.9	2.6	B	70	50	
10	(3)	対話文を読んで，語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○								○					○		53.0	4.2	B	70	50	
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○		79.1	8.2	A	75	55	◎
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○	○	49.8	15.7	C	65	45	
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○						○		○					○	○	53.6	15.6	C	65	45	
12	(1)	メールの内容を正しく理解する		○								○				○				74.7	2.6	C	65	45	◎
12	(2)	メールの書き手の意向を理解し，内容的にまとまりのある返信を書く		○	○						○	○						○	○	40.4	22.7	E	55	35	

(4)　地域別の状況

○　県内５地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、５地域とも中学校１・２年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。［グラフ８］
○　県内５地域における学年別教科正答率の対県比は［表３］のとおりで、中学校１・２年生とも、地域間の学力差が大きい状況にあるが、平成 27 年度 12 月調査と比べて、中学校２年生で地域差が縮小している。

［グラフ8］　県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を 1.00 として算出



［表３］　県内５地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科		実施年度	対県比（　地域教科正答率/県教科正答率　）					地域差
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
中学校1年生	英語	H28［12月］	1.00	1.04	0.92	1.02	1.00	▲拡　0.12
		H27［12月］	1.00	1.05	0.95	0.98	1.00	▲　0.10
中学校2年生	英語	H28［12月］	1.00	1.05	0.94	1.00	0.98	▲縮　0.11
		H27［12月］	0.99	1.04	0.90	1.04	1.06	▲　0.16

※　「対県比」は、県正答率を 1.00 として算出
※　「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す
※　「▲」は、地域差が 0.10 以上の教科を示す
※　「縮」は、平成 27 年度［12 月調査］より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐　城	佐賀市、多久市、小城市
三　神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵　西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤　津	鹿島市、嬉野市、太良町